静岡市内のさまざまな場所を会場に開催されている展覧会「めぐるりアート静岡」。※今年度会期、10月23日～11月11日

「めぐるりアート＋（プラス）」は、これまで「めぐるりアート静岡」に関わったアーティストへの新たな発表の場の提供に加え（プラスし）、グランシップにご来館のみなさまに日常的にアート作品に触れていただくことを目的とした、あたらしい展覧会です。館内のさまざまなスペースに、年２組のアーティストの作品を展示していきます。

大杉 弘子（おおすぎ ひろこ）

現代書家・イデオグラファー。東京学芸大学書道科卒。手島右卿に師事。

1990年静岡県文化奨励賞／川村賞受賞。2002年文化庁特別派遣在外研修員(デュッセルドルフ)。国内外で個展等多数開催。1995年以降、彩色「青」古墨の作品を発表。文字の身体性・音楽性・視覚性・言語性・解体再構築など「文字の初源」を見つめ切り開く活動を続けている。JAA日本美術家連盟会員、IAA国際美術家連盟会員

めぐるりアート静岡 関連事業

主催：公益財団法人 静岡県文化財団・ふじのくに文化情報センター・静岡県

協力：国立大学法人 静岡大学

グランシップ館内にて開催中 観覧無料

めぐるりアート＋

2018年度 前期展示

2018年5月25日(金)～10月15日(月)

阿摩羅不可思議／大杉弘子

作品解説

◆ショーウィンドウ　《阿摩羅不可思議》

仏典の、極小から極大への数を表す文字を書く。いにしえの果てしない想像力に思いをはせて。

10^{-24}〜10^{-1}			10^{0}〜10^{68}		
涅槃寂静	瞬息	沙	一	垓	恒河沙
阿摩羅	須臾	繊	十	秭	阿僧祇
阿頼耶	逡巡	微	百	穣	那由他
清浄	模糊	忽	千	溝	不可思議
虚空	漠	糸	万	澗	無量大数
六徳	渺	毛	億	正	
刹那	埃	厘	兆	載	
弾指	塵	分	京	極	

鳥のこ和紙（360㎝×150cm を６点）
墨・ネオカラー，2018 年

◆１階エントランス　《不盡山Ｅ山ヨ》

絹本（240cm×280㎝），松煙古墨，2018 年

漢字「山」を 90 度回転させることで、アルファベット「Ｅ」とカタカナ「ヨ」が出現した。「Ｅ」「山」「ヨ」を反復連想する言葉遊びが「富士（不二・不盡）は日本一いい山よ」へと展開していった。

◆2 階エスカレーター踊り場
《龍》降臨

『かけがわ茶エンナーレ 2017』、日坂（にっさか）エリアの事任八幡宮（ことのままはちまんぐう）・逆川（さかがわ）河畔の禊場に展示。
台風 21 号 22 号の大雨大風に千切れながらも耐え抜いた「水に書いた野外の文字」。

綿布（600㎝×200㎝）
ネオカラー・スパンコール，2017 年

◆3 階エスカレーター付近　《白狐》《紅無》

《白狐》能楽「小鍛冶」より。曲線による異体字構成／甲骨文字「白」と草書体「狐」
《紅無》能楽「隅田川」より。直線による構成／甲骨文字

2016 年度静岡大学アートマネジメント人材育成事業を締めくくる、「報告と体験」会のオープニングにて揮毫。
文字は、その年のグランシップ静岡能の演目「隅田川」と「小鍛冶」から採られた。

二曲一双屏風，鳥のこ和紙，松煙古墨（左）／油煙墨（右），（150㎝×150㎝ 2 点），2016 年